

大使館情報

2023年6月

【目次】

1. ブラジル・マクロ経済情勢

- (1) 経済情勢
- (2) 経済政策等
- (3) 金融政策
- (4) 為替市場
- (5) 株式市場

2. ブラジル政治情勢 (5月の出来事)

【内政】

- (1) 新たな財政運営枠組 (arcabouço fiscal) についての法案が下院を通過
- (2) 省庁再編に関する暫定措置令 (MP) が上下両院合同委員会を通過

【外交】

- (1) ルーラ大統領の英国訪問
- (2) ルーラ大統領の G7 広島サミット出席
- (3) 日・ブラジル首脳会談
- (4) COP30 の開催地がベレン市に決定
- (5) 南米諸国の首脳会議 (於: ブラジリア)
- (6) ブラジル・ベネズエラ首脳会談

3. 5月のトピックス

- (1) 第11回ブラジリア日本祭りの実施 (5月5~7日)
- (2) TV Recordによる林大使インタビュー (5月11日)
- (3) 林大使のペルナンブコ州訪問 (5月25~26日)

4. 大使館からのお知らせ

- (1) 在伯公館 SNS リンク一覧
- (2) 外務省 海外安全ホームページ
- (3) ブラジル渡航情報

1. ブラジル・マクロ経済情勢

(1) 経済情勢（5月発表の経済指標）

- (ア) 4月の鉱工業生産指数は前月比▲0.6%、前年同月比▲2.7%となった。
- (イ) 3月の小売売上高は前月比+0.8%、前年同月比+3.2%となった。
- (ウ) 4月の拡大消費者物価指数（IPCA）は前月比+0.61%となった（前月：+0.71%）。直近12か月累計は+4.18%となり、前月（同+4.65%）から上昇幅は0.47%ポイント縮小した。
- (エ) 失業率（2月～4月）は8.5%となり、3か月前（2022年11月～23年1月）の移動平均8.4%から0.1%ポイント上昇。また前年同期（2022年2月～4月）の10.5%から2.0%ポイント低下した。
- (オ) 伯中央銀行が週次で発表しているエコノミスト等への調査（Focus調査）について、6月2日時点で、GDP成長率予測については、2023年は+1.68%（前週から0.42%ポイント上昇）で、2024年は+1.28%（前週から0.02%ポイント下落）となった。インフレ率については、2023年は5.69%（前週から0.02%ポイント下落）で、2024年は4.12%（前週から0.01%ポイント下落）となった。

(2) 経済政策等

連邦上院は、5月10日、移転価格税制改正の為の暫定措置令を可決した。これにより、従来の独自の計算式に基づく移転価格ルールから、OECDガイドラインに適合した独立企業間原則の適用が可能となる。本暫定措置は2024年1月1日に一般法として発効される予定である。

(3) 金融政策

次回伯中央銀行金融政策委員会（Copom）は6月20日及び21日に開催。

(4) 為替市場（レートは伯中銀の公表値から算出）

- (ア) 5月の為替市場は4.91～5.10リアル/ドルで推移。
- (イ) 月の前半は4.91～5.03リアル/ドルで推移。米国経済の動向を背景とする金融政策を巡る見通しや、新たな財政運営枠組を巡る動向等を材料にして、概ね上昇傾向で推移した。
- (ウ) 月の後半は4.91～5.10リアル/ドルで推移。伯のインフレ率低下により早期利下げへの思惑が高まり、概ね下落傾向で推移した。

(5) 株式市場

- (ア) 5月の株式市場は101,797～110,906ポイントで推移。
- (イ) 月の前半は101,797～109,029ポイントで推移。米国の景気不安後退等を背景に、概ね上昇傾向で推移した。
- (ウ) 月の後半は108,194～110,906ポイントで推移。内外の経済動向や新たな財政運営

枠組を巡る動向等を材料に上下して推移した。

2. ブラジル政治情勢（5月の出来事）

【内政】

（1）新たな財政運営枠組（arcabouço fiscal）についての法案が下院を通過

5月23日、下院において、新たな財政運営枠組（arcabouço fiscal）についての法案の緊急審議動議が賛成372、反対108で可決された。

（2）省庁再編に関する暫定措置令（MP）が上下両院合同委員会を通過

5月24日、ルーラ政権の省庁再編に関する暫定措置令（MP）が一部修正の上、賛成15、反対3により、上下両院合同委員会を通過、また5月31日に下院、6月1日に上院を通過した。主な修正内容は、国立先住民財団（FUNAI）の先住民省から法務・治安省への移管、国家水資源庁（ANA）の環境省から統合・地域開発省への移管等であった。

【外交】

（1）ルーラ大統領の英国訪問

5月5日、ルーラ大統領はチャールズ英国王の戴冠式に参列するため、英国を訪問した。同国訪問中に、スナク首相と首脳会談を実施。同会談にて、スナク首相は、英国はアマゾン基金に8千万ポンド（約5億ドル）を供与すると発表した。

（2）ルーラ大統領のG7 広島サミット出席

5月18日、ルーラ大統領はG7 広島サミットに出席のため、広島に到着し、20日、21日に実施されたアウトリーチ行事に参加した（ブラジルがG7のアウトリーチ国として参加するのは2009年（第2次ルーラ政権）以来）。19日はアルバニージー・オーストラリア首相、20日は岸田総理、ジョコ・インドネシア大統領、マクロン・フランス大統領、ショルツ・ドイツ首相、21日はトルドー・カナダ首相、モディ・インド首相、チン・ベトナム首相、アザリ・コモロ大統領とそれぞれ二国間会談を行った。

（3）日・ブラジル首脳会談

5月20日、ルーラ大統領は岸田総理と約1時間にわたり首脳会談を行った。

（詳細は以下の外務省HPをご覧ください）

https://www.mofa.go.jp/mofaj/la_c/sa/br/page4_005895.html

（4）COP30の開催地がベレン市に決定

5月26日、ルーラ大統領は2025年11月に実施されるCOP30の開催地に、パラ州ベレン市が選ばれたことを発表した。ヴィエイラ外相は「ブラジルにおいてもベレンにおいても、気候変動に関するこのような重要な会議が開催されるのは初めてである」と述べた。

（5）南米諸国の首脳会議（於：ブラジリア）

5月30日、ブラジルにおいて南米諸国の首脳会議が開催され、南米諸国連合（UNASUR）の再活性化等について話し合われた。アルゼンチン、ボリビア、チリ、コロンビア、エクアドル、ガイアナ、パラグアイ、スリナム、ウルグアイ、ペルー、ベネズエラが参加した（ペルー以外は首脳が参加）。南米地域統合へのロードマップ作成のための外相級のワーキンググループの設置等を含む成果文書（Consenso de Brasília）が合意された。

（6）ブラジル・ベネズエラ首脳会談

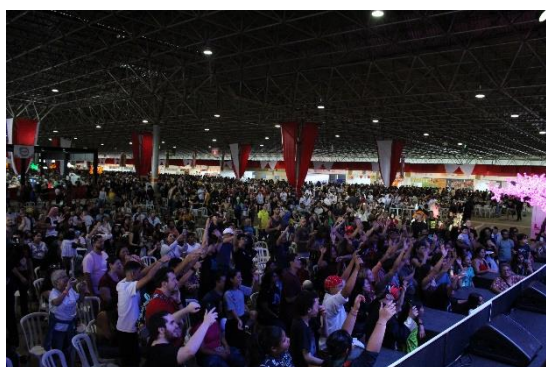
5月29日、マドゥーロ・ベネズエラ大統領が8年ぶりにブラジルを訪問し、二国間関係の正常化プロセスを進展させるため、あらゆる分野に関して会談を実施。特に、ルーラ大統領は、二国間貿易の回復を目的の1つとしていたことを明言した。

3. 5月のトピックス

（1）第11回ブラジル日本祭りの実施（5月5～7日）

在ブラジル大使館はブラジル中西部日伯文化協会連合会（FEANBRA）と共催で「第11回ブラジル日本祭り」を実施した。当館ブースでは、5月5日の子供の日に因んだフォトスポットや兜の展示、国費留学生相談ブース、観光PRを行った。また、国際交流基金の協力を得て、VRによる日本文化体験を行い、いずれのブースも盛況となった。

また6日には、林駐ブラジル日本国大使が開会挨拶をしたほか、墨絵のワークショップを行った。



会場の様子



VRによる日本文化体験



林大使の開会挨拶



林大使による墨絵ワークショップ

(2) TV Recordによる林大使インタビュー（5月11日）

5月11日、林大使は、TV Recordのインタビュー番組「JR Entrevista」に出演し、G7広島サミット2023や日伯経済関係等について話をした。

（番組の様子（ポルトガル語）は以下をご覧ください）

https://youtu.be/XvPGgL_faV8

(3) 林大使のペルナンブコ州訪問（5月25～26日）

5月25～26日の間、林大使はペルナンブコ州を訪問した。

25日午前、林大使は、レシフェ市旧市街に拠点を置く、ポルト・デジタル・マネジメント・センター本社を訪問し、マリアナ・ピンコヴスキー/同副社長から、IT企業集積地を目指す「ポルト・デジタル」に関する説明を受けた後、同副社長と日本企業及び団体との今後の連携可能性につき意見交換を行った。続いて、レシフェ市在住の有識者4名と、主に同地政治経済情勢に関し意見交換を行った。

午後は、ハケル・リラ/ペルナンブコ州知事を表敬し、日本と同州との今後の協力方途につき意見交換を行った。さらに、ペルナンブコ連邦大学のケイゾー・アサミ免疫病理学研究所（iLIKA）を訪問し、35年間にわたる日伯協力の様々なプロジェクトを通じ供与された医療機器が活用されている現場を視察した。続いて、林大使は、南米で最も長い歴史をもつ新聞というディアリオ・デ・ペルナンブコ紙本社を訪問し、伯北東部の視点を交えつつ最近の日伯関係についてインタビューを受けた（掲載記事は[こちら](#)をご参照ください）。また、イワタ・ケンイチ・ジュニオール/レシフェ日本文化協会会長をはじめ、レシフェ市を拠点とする日系人リーダー6名と、同地におけるさらなる連携につき意見交換を行った。



ポルト・デジタル・マネジメント・
センター本社訪問



レシフェ市在住有識者との意見交換



ハケル・リラ/ペルナンブコ州知事への
表敬訪問



ペルナンブコ連邦大学ケイゾー・アサミ
免疫病理学研究所（iLIKA）訪問



ディアリオ・デ・ペルナンブコ紙本社訪問



レシフェ市を拠点とする日系人リーダーとの意見交換

26日午前、林大使は、ペトロリーナ市へ移動し、同市にアセロラ加工製品工場を構えるニアグロ社（ニチレイブラジル農産有限会社）を訪問し、同社事業概要につき説明を受け、同社工場内を視察した。ニアグロ社は30年以上事業を行ってきており、地元経済に貢献している。

午後は、ブラジル日本文化福祉協会農業関連交流会（Bunkyo Rural）の訪問団一行に同行し、サンフランシスコ河・パルナイーバ開発公社（CODEVASF）の灌漑管理施設及び藤山農場（花卉栽培業）を訪問した。また、その夜には、ジュアゼイロ市に所在するサンフランシスコ河中流域日伯文化体育協会（AGENIBRA）の会館にて開催された、第16回 Bunkyo Rural 開会式に出席し、多くの参加者と懇談を行った。



ニアグロ社（ニチレイブラジル農産有限会社）訪問



第16回 Bunkyo Rural 開会式への出席

4. 大使館からのお知らせ

(1) 在伯公館 SNS リンク一覧

在ブラジル大使館をはじめ各総領事館及び領事事務所では、SNS にて文化イベントを含め最新情報等を随時更新しています（以下リンク先をご参照ください）。

在ブラジル大使館 : [facebook](#) [instagram](#) [YouTube](#)
在ベレン領事事務所 : [facebook](#)
在マナウス総領事館 : [facebook](#)
在レシフェ総領事館 : [facebook](#) [instagram](#)
在リオデジャネイロ総領事館 : [facebook](#) [instagram](#) [YouTube](#)
在サンパウロ総領事館 : [facebook](#) [YouTube](#)
在クリチバ総領事館 : [facebook](#) [Instagram](#) [YouTube](#)

(2) 外務省 海外安全ホームページ

(ア) 各国の危険情報や安全対策等海外赴任、出張及び旅行をする際の留意点を公開しています。

<http://www.anzen.mofa.go.jp/>

(イ) 各公館で四半期毎に「海外安全対策情報」を公開しています。在伯大使館の情報（令和4年度第3四半期）は以下のリンク先から。

https://www.br.emb-japan.go.jp/itpr_ja/kaigai_anzen_taisaku.html

(ウ) 各在伯公館が「在外邦人向け安全の手引き ブラジル」を作成し公開しています。

https://www.anzen.mofa.go.jp/manual/brazil_manual.html

(3) ブラジル渡航情報

(ア) 危険情報

最新更新日：2022年4月5日

http://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcinfectionspothazardinfo_259.html

以下の地域が「レベル1：十分注意してください。」となっています。

- ・ブラジリア連邦区
- ・サンパウロ州大サンパウロ圏及びカンピーナス市
- ・リオデジャネイロ州大リオ圏
- ・エスピリトサント州大ビトリア圏
- ・アマゾナス州大マナウス圏
- ・ロライマ州北部
- ・パラ州大ベレン圏
- ・ペルナンブーコ州大レシフェ圏
- ・バイーア州大サルバドール圏

- ・セアラ州大フォルタレーザ圏
- ・パラナ州大クリチバ圏
- ・リオ・グランデ・ド・スル州ポルトアレグレ市

(イ) 安全対策基礎データ

最新更新日：2022年8月1日

https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcsafetymeasure_259.html

主要各州、都市毎の犯罪発生状況、防犯対策及び滞在時の留意事項等に加え
査証、出入国審査及び新型コロナウイルス関連情報や大使館、総領事館の緊急連
絡先を公開しています。

(ウ) テロ・誘拐情勢

最新更新日：2023年4月11日

https://www.anzen.mofa.go.jp/info/pcterror_259.html

ブラジル経済・二国間経済関係概観

i% GDP > \ š3Q

H T MGW GyH

1. 経済構造

1. Ç • (ÜH h 1,331S Ç F,8 ' (Ü 851S km² H202 PH
2. a#ú" 13)Fp) í0d •H i% GDP(ÜH T 8,08 hGW Gy
H202 PH H ¥ •Fp(Ü 33 H H F¹ M Ç \Fi GDP H (Ü,56 GW
Gy H202 PH H ¥ F, ¥ •Fp(Ü 19 H F¹
3. a#ú w XFp3° G%o2(; \F ÷ FÒG FÜF, #Ø 9 \ Æ)r#Õ
#Ø GDP H F ÷ Fy" U #Ø H GCGŠ Ga GÜ 9 * FÔG4G5
G2GVG" (G FöFÔG F¹
4. GDP G"7Â0[8o% 9F ÷ G G FøF, 0£ ~2 G)r [2(•
g BH ž2(H FøFÔFóFi Æ7ÂFÜ B6xFû \$ ZFçFöFÔG F¹

H %H MFWorldEconomicOutlookOct,2022

i% GDP Fp N&ã

H T MGzG0 GyH

i% GDP Fp #Ø 9 S B š H 2022 H

